

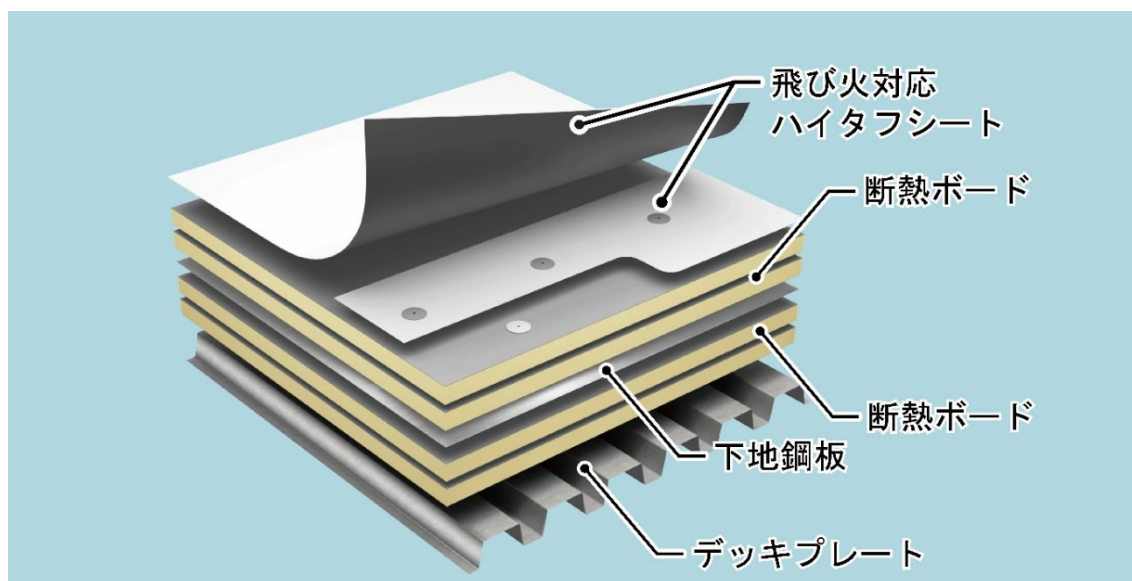
**シート防水業界初*1！断熱材厚200mmで飛び火性能試験に合格した
屋根シート防水工法「ハイツ®防火」を発売開始
「高断熱」と「防火」を同時に実現した新商品（国土交通大臣認定申請中）**

三晃金属工業株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：青木栄一）は、1987年の発売以来39年間にわたり当社が実績を積み重ねてきた、屋根シート防水工法「ハイツ®」シリーズの新商品として、「ハイツ®防火」を2026年10月1日より、発売いたします。「高い断熱性能」と「防火性能」を両立した新しい屋根シート防水工法です。

「ハイツ®防火」は、米国シート防水材メーカーGAF社と共同で開発した、難燃性を高めた熱可塑性エラストマー系シート防水（以下、「TPOシート」）と、最大厚み200mmの断熱ボード（25～200mmに対応）を組み合わせた構成で、一般財団法人 建材試験センターでの飛び火性能試験に合格しました。

現在、国土交通大臣の飛び火認定を申請中で、年内中に取得する予定です。断熱ボード厚み200mmでの飛び火性能試験合格は、国内シート防水業界で初*1となります。

（※1:当社調べ、2026年9月30日現在）



図：金属折板下地（デッキプレート）と断熱ボード厚み200mm構成での飛び火仕様イメージパース図

※商品の詳細はwebページをご参照ください(<https://www.sankometal.co.jp/products/list/detail.php?p=4592>)

【開発の背景】

近年、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）適合推進や、工場・倉庫・学校体育館などの熱中症対策、半導体工場における高度な空調・断熱負荷低減の要求から、屋根の「高断熱化」へのニーズが高まっています。このような背景を受け、防火地域・準防火地域および建築基準法第22条指定区域においても、高断熱仕様（最大厚み200mm）を提案可能な新商品としてシート防水工法「ハイツ®防火」を共同開発いたしました。

【新商品「ハイツ防火」の主な特長】

1. 【シート防水業界初※1】最大厚み200mmの断熱ボード構成で、飛び火性能試験に合格

難燃性を高めたTPOシート「飛び火対応ハイツシート（厚み1.52mm）」と硬質ウレタンフォーム断熱ボード（最大厚み200mm）の組み合わせにより、一般財団法人 建材試験センターでの飛び火性能試験に合格。屋根シート防水工法において「高い断熱性能」と「防火性能」とを両立した、屋根の設計・施工を可能にします。（※1:当社調べ、2026年9月30日現在）

2. 業界トップクラスの日射反射率「75.8%^{*2}」で、屋根シート防水表面温度を約14℃低減^{*3}

シート表面には、高い反射率を誇る「ホホワイト」を採用し、業界トップクラスとなる75.8%^{*2}の日射反射率を実現しました。夏季快晴時の屋根表面温度を、従来品（ライトグレー色）の約60℃から約46℃へと約14℃低減^{*3}します。

外断熱工法とのシナジー効果により、建物内部への熱侵入を遮断し、空調コスト削減とヒートアイランド現象の緩和に寄与します。

（※2：一般財団法人 建材試験センターでの測定値）

（※3：社内での実測値）

3. あらゆる建築物に対応する「24種類の屋根仕様バリエーション」

金属折板（デッキプレート等）、コンクリート、鋼製、木製など、主要な屋根下地に対応する合計24種類の飛び火対応仕様をラインアップ。あらゆる建築物の構造に応じた最適な設計提案が可能です。

4. 従来の高品質な施工技術・信頼性をそのまま継承

現行の標準品「ハイツ®EG」と同一の施工仕様（熱風融着やハイツメタル納め等）を採用。長年培われた施工ノウハウをそのまま活かせるため、現場の負担を増やすことなく当社の施工有資格者による責任施工により安定した施工品質を確保します。（従来通り最長10年間の防水保証）

【新商品概要】

・商 品 名：「ハイツ®防火」

※商品詳細はホームページをご参照ください(<https://www.sankometal.co.jp/products/list/detail.php?p=4592>)

・発 売 日：2026年10月1日

・施 工 開 始 日：2027年4月（予定）

・工 法 名：屋根シート防水 / 機械的固定工法 / 外断熱工法

・主要構成部材：防水材 … 「飛び火対応ハイツシート」（ホホワイト／厚み1.52mm）

断熱材 … 硬質ウレタンフォーム（厚み25mm～200mm）

下地材 … デッキプレート（厚み1.0mm、1.2mm）、コンクリート、木製、鋼製など

三晃金属工業は金属屋根のリーディングカンパニーとして、これからも「空と人のあいだに」ある屋根の可能性を追求することで、豊かな未来づくりに貢献してまいります。

以 上